

# 集落営農組織の経営多角化・広域連携推進に向けた検討【報告書概要版】

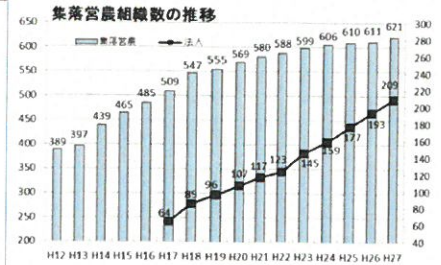
## 1. 島根県の農業を取り巻く状況

### ・現状

- ①農地が小規模で作業性に劣る中山間地域が多数
- ②全国に先駆けて過疎・高齢化が進んでおり、農業従事者についても高齢化が進行
- ③農業の担い手不足や耕作放棄地の増加

### ・取組

- ①集落単位で農地・農業機械・労働力を有効に活用し、「農地の維持」を目指す「集落営農」を推進
  - ②平成20年からは「地域経済の維持」や「生活維持」など多様な役割を果たす集落営農を「地域貢献型集落営農」を推進
- 農業・農村の維持・活性化のきっかけづくり・しくみづくりにつながっている



## 2. 集落営農組織の課題

- ・大幅な米価の下落や担い手不足
  - ・平成30年産からの米政策の見直し
- 営農環境の悪化に伴い、経営維持が困難となる。特に中山間地域では農地が点在しており農地集積が困難なことや高齢化が著しい等、他地域に比べてより厳しい状況に直面

しかしながら、中山間地域という不利な条件ながらも創意工夫により持続的な農業経営を実践している集落営農組織がある。そうした地域の成功事例を他地域に広く取り入れることができないかという視点で視察を実施した。

## 3. 視察で聞かれた意見と見えてきたポイント

- ・地域の核となる人材が不可欠
  - ・集落営農法人は地域の維持に欠かせない
  - ・常に新たな挑戦をしていかなないと組織維持は難しい
- 
- リーダーを中心に地域全体で活動することが重要
  - 地域に貢献する集落営農法人の必要性
  - 地域によって状況は千差万別～画一的な施策では解決できない～

## 4. 提案の方向性

### 『考える』～10年後の設計図～

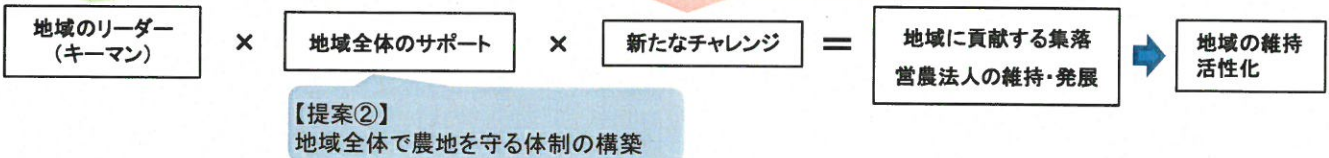
- ・成功に至った要因は組織ごとに異なり、その取り組みを他組織に真似させても成功するとは限らない。
- ・それぞれの地域が自分たちで、自分たちの地域に最も適した方策を考え、それを自分たちで実行していかななくてはならない。

### 【提案①】

地域の核となる人材の確保・育成

### 【提案③】

集落営農法人等の収益力向上



## 5. 具体的な施策の提案

【提案①】地域の核となる人材の確保・育成  
～10年後の地域リーダーを考える～

直面する課題に、中心となって地域を牽引することのできる資質と知識を有する人材の確保及び育成を図る。

- ①集落営農リーダー育成コースの創設
- ②「ほくらの地域の営業マン」の設置
- ③繁忙期助け合い事業
- ④農林基礎学びブコースの増設
- ⑤地域をコーディネートする人材の配置
  - A. 地域コーディネーターの配置
  - B. 県職員の配置

【提案②】地域全体で農地を守る体制の構築  
～10年後の地域のあり方考える～

地域全体で農地を守るという機運醸成を図るとともに、地域の資源を総動員して地域を守る体制の構築を図る。

- ①集落通信簿の作成  
～自分たちの地区の現状を考える～  
・集落単位で「集落の農業」に視点を絞った通信簿を作成。  
・「気づき」を促すことで、地域の将来を真剣に考えるきっかけとする。
- ②集落営農法人×企業連携の検証
- ③農業サポート企業認定制度
- ④メールマガジンの発行

【提案③】集落営農法人等の収益力向上  
～10年後をイメージし、自ら考え行動する～

持続性のある組織運営が可能となるよう、多業化や販路拡大の取組を支援し、収益力アップを図る。

- ①集落営農法人の多業化に向けた支援
  - A. 多業化アドバイザーの配置
  - B. 多業化に関する研修
- ②ロット確保のための広域連携